

## 教材・支援機器活用実践事例

### 【見て、触って、姿勢を保持する力を育む 遊び教材】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	音を出してみよう
	授業における教師のねらい	○遊びをとおして、主体的な動きを引き出すとともに、首を起こした姿勢を保持する力を育むー「身体の動き」(1)「コミュニケーション」(1)
	授業における子どもの目標	○教師と一緒に遊ぶ遊びをとおして、教師が玩具に触れて音を出すことを見聞きしたり、自分の手で触れて音を出したりして楽しむ。
子どもについて	学級・学校・学年	特別支援学校 小学部 低学年
	対象の障がい	肢体不自由 知的障がい
	授業形態	個別指導
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガラガラなど音が鳴る玩具を好み、握った玩具を振って音を出そうとする。</li> <li>・首がまだすわっていない。うつ伏せの姿勢で首を起こそうとする動きは見られるが、首を起こした姿勢を保持することは難しい。</li> </ul>
教材・支援機器活用	使用した教材・支援機器の名称	 <p>カラービーズと鈴をゴムひもに通し、両端を枠に固定した玩具。 手でひっかくようなわずかな動きでも、ビーズがカラカラとぶつかる音や鈴の音が鳴る。</p>  <p>脇の下にクッションを置くなどして、児童が楽に腕を動かせるような姿勢で使用する。</p>
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具の音を鳴らす遊びなど、本人の好きな活動をとおして、首を起こした姿勢を保持する力を育み、本人の主体的な動きを引き出す。</li> </ul>
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の手の動きを引き出すために、安定した姿勢になるよう固めのクッションで調整する。</li> <li>・本人が玩具のビーズひもに触れて手を動かし、自分で音を出すことができ、それに気付いて表情を変化させたり、声を発したりしたときには、思いを共有し、「カラカラ、なったね。」「カラカラ、音が出せたね、すごいね。」などと言葉掛けをして、教師とのかかわりを楽しみながら活動できるようにする。</li> </ul>
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具を目の前に提示されると、自分から首を起こして見ようとしたり、手を伸ばして触れようとしたりする姿が出てきた。快、不快の表情がはっきりしてきて、玩具を見ると笑顔になり、「あ〜」と機嫌良く声を発するようになった。</li> </ul>